



2021(令和3)年 4月28日 水曜日

発行所 福島民報社 福島市大田町13-17 (郵便番号960-8602) 電話代表 (024) 531-4111 福島局531-4122 広告局531-4153 事業局531-4173 販売局531-4175 購読のお申し込み ☎0120-373437



日本酒の正統 生醸造り 大七 DAISHICHI

トリチウムの総量1930兆... 巨大1丁ネット広告規制へ 大谷、二刀流完全復活... がん10年生存率は59.4%... 書の叢書 県内13人受章 9面

テレビラジオ番組と解説 地方版・ワイド 生活 ひろば ふくしまは負けない明日へ

新型コロナ 回復者から有効抗体

福医大発見 予防薬開発へ前進

新型コロナウイルス感染症の治療や予防に有効な抗体医薬品の開発を進めている福島医大は、感染回復者の血液から、主に予防薬の開発が期待できる抗体を発見したと発表。まずは衛生用関連薬と連携し、この抗体を活用したマスクなどの製品を今夏にも開発する。早ければ二〇二三年(令和五年)には、取得に成功した抗体を基に作る医薬品の臨床試験に着手し、その後の実用化につなげる。竹之下誠二理事長兼学長が二十七日、福島市の同大記者会見した。(二面に関連図説)



〜ルドのネモフィラ

企業と協働を進め、今夏にも試作品を完成させる見込み。医薬品はスプレーで鼻孔に直接噴霧したり、トローチとして口中で溶かしたりする形を想定している。動物実験を経て人間に投与する臨床試験に移り、効果的な投与方法や安全性を検証する。医薬品の実用化には通常十年程度を要するが、医療界と産業界の協働により、開発から市場に出るまでの期間を短縮する見込み。同大は

容ナハコリモトカエ

東京電力福島第一原発で増え続ける放射性物質トリチウムを含む処理水を海洋放出する政府の処分方針決定をめぐり、市民会事務局による、処分方針決定後に国民の理解と納得を得るための処分方法の決定の意向書を可決した。六月定例会で、処理水の海洋放出を反対する意向書を全会一致で可決した。処理水を海洋放出しないよう求め、六月定例会で、処理水の海洋放出を反対する意向書を全会一致で可決した。六月定例会で、処理水の海洋放出を反対する意向書を全会一致で可決した。

【IgA抗体とIgG抗体の違い】

抗体	IgA	IgG
主な特徴	・腸管や気道などの粘膜や初乳に多く存在 ・目や鼻の細菌やウイルスの感染の防御	・血液中で最も多く存在する抗体 ・体内に侵入した細菌やウイルスを無毒化する働き
医薬品としての活用例	・鼻孔に噴霧する ・トローチとして口中で溶かす	・注射する

IgAを活用した医薬品が承認されれば世界初
IgGを活用した抗体医薬品は多数存在

内 変異株17人感染

陽性率 19.25% 検査対象の3割超

県は十九日から二十一日にかけて新型コロナウイルスの陽性が判明した三人を除く、十九日から二十一日までの一週間に変化した十七人の海外滞在歴を調査した。対象は四十四人に占める陽性率は31.8%に上った。十八日までに検査した十七人のうち、民間

海洋放出撤回求める

意見書を可決

六月定例会で、処理水の海洋放出を反対する意向書を全会一致で可決した。六月定例会で、処理水の海洋放出を反対する意向書を全会一致で可決した。六月定例会で、処理水の海洋放出を反対する意向書を全会一致で可決した。

「日本一」のふくしまをつくる

回成を他の感染症研究にも生かす方針。竹之下理事長兼学長は記者会見で、「想定よりも早く有効な抗体を取得できた。福島医大独自のタンパク質解析技術がいかに優れているかを再認識した」と成果を強調。浜通りに新設予定のTRセンターの研究施設で、企業と連携して研究を進める意向を示した。

空を舞い続ける空遊動機「AN」... 空遊動機「AN」... 空遊動機「AN」...

福島医大の新開発

説

論

福島医大が感染症の予防、治療に効果的な医薬品開発で大きな成果を挙げている。新型コロナウイルス感染症の研究で、ウイルスの感染を防ぐ十八種類の抗体取得に成功した。このうち三種類は主に鼻孔噴霧型の予防薬に生かせる「IGA」と呼ばれる抗体で、医薬品として承認されれば世界初という。薬の量産に欠かせない抗体遺伝子も得ており、実用化に向けた関係機関の支援に期待したい。

感染症対策に光明

福島医大の「医療―産業トランスレーショナルリサーチ(TR)センター」が貢献している。二十七日、医薬品開発の現状を発表した同大の高木基樹TRセンター教授によると、全国の高齢者を対象に

接種が始まっているワクチンは体内で抗体を作るため、効果にはどうしても個人差が出てしまう。TRセンターが目指す医薬品はウイルスを防ぐと確認された抗体を直接投与するため、ワクチンでは十分な部分を補えるという。TRセンターが持つ独自の

タンパク質解析システムが、今回の研究を可能にした。病原体など約四千種類の微生物を一枚のチップに載せ、その抗原に対する抗体反応を見る

た人からの採血が不可欠だったが、福島赤十字病院や東京の二つの病院から約九十人が協力した。世界初の医薬品開発を待望する医療機関の切実な思いを受け止めたい。医薬品としての承認までには、基礎研究を続け、非臨床試験への着手など多くの手続きを踏む必要がある。通常ならば十年単位の期間を要するといわれている。いかに早く医薬品として予防を求める人や患者に届けるか。厚労省など行政や民間の医薬品メーカーとの折衝や連携が重要となってくる。TRセンターは、東日本大

震災と東京電力福島第一原発事故で大打撃を受けた本県の経済を医薬品関連産業の振興によって復興させるのを狙い、震災翌年の二〇一二年(平成二十四)年に構内に設置された。医薬品を開発する企業に研究成果を提供すること、医療界と産業界を結び付ける使命を持つ。震災・原発事故から十年が過ぎ、全国的な認知度も高まっている。福島医大の竹之下誠一理事長兼学長は「最先端の医療機器があれば、優秀な人材が自然と集まってくる」と自信を示している。福島医大でしかできない世界水準の研究を広めることは、新型コロナウイルス対策とともに被災地に光明をもたらす。(安齋 康史)

トリチウム総量1930兆ベクレル

第一原発デブリから一定量移行

東京電力福島第一原発で増え続けるデブリのトリチウム濃度

表

標準の四十分の一未満まで減らす。二手差をめぐり、原発事故前に福島第一五年かかり、廃炉完了

基準超えは「処理途上水」
東京電力は二十七日、福島第一原発の処理水約二十五万トのうち、トリチウム以外の放射性物質を海洋放出の基準を超えて含む

再稼働きょう

40年超原発で

福井県の杉本達治知事は二十七日、関西電力の森本孝社長、梶山弘志経済産業相と相次いでオンラインで会談した。梶山経産相は「将来にわたり持続的に原子力を活用していく」と述べ、県内にある運転開始から四十年を超えた関電の美浜原発3号機(同県美浜町)と高浜原発1、2号機(同

杉本知事は会談後「大臣の覚悟を聞かせてもらった。精査はいるが、判断材料はそろってきている」と語った。再稼働すれば、東京

里山再生へ新計画

県と林野庁は今年度、東京電力福島第一原発事故の影響を受けている県内の里山と広葉樹林再生に向けた計画を新たに作成する。二〇二二(令和四)年度から計画に基づく取り組み開始を目指す。二十七日、県庁で開いた

里山・広葉樹林再生プロジェクト推進連絡会議で方針を決めた。複数のモデル地域を設定した上で、原発事故発生前のシイタケ原木として利用されていた森林の生育状況や放射性物質の動態などを踏まえた再生計画を作

福島第一原発事故



2021年(令和3年) 4月28日 水曜日

福島民友



3ネット特設ページ

旧暦3月17日 先勝 四緑

発行所 福島民友新聞社 〒960-8648 福島市柳町4-29 代表電話 024-523-1191 www.minyu-net.com

福島医大取り出し成功

新型コロナウイルスの抗体医薬品の開発を目指す福島医大は27日、新型コロナウイルスに感染して回復した人の血液から、感染阻止に有効な中和抗体の「IgA抗体」を取り出すことに成功したと発表した。医大はIgA抗体を使った医薬品の開発を進める方針で、今後、抗体の大量生産に着手、早ければ2年後にも臨床試験を始める考えだ。IgA抗体を使った医薬品が承認されれば世界初となる。(2面に関連記事)

治療薬開発へ前進

医大は10月にも浜通りに拠点を整備、協力する企業とともに研究を進める。医薬品開発に時間がかかることから、スプレーやマスクなど衛生用品にもIgA抗体を活用する計画で、夏までに試作品を完成させる。医大は約1年前に抗体医薬品の開発を開始。感染して回復した協力者約90人から血液の提供を受け、新型コロナウイルス

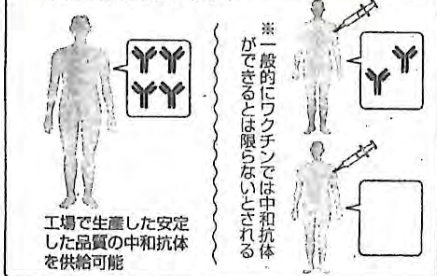
抗体は生体防御に関与するタンパク質で、免疫グロブリンとも呼ばれる。IgG、IgAなど5つの種類がある。特定の構造にしか結合しないという特徴を利用し、病気の原因となる物質に結合する抗体が抗体医薬品として活用される。日本医大が独自に開発したIgA抗体は、がんや自己免疫の病気を対象とする薬が多い。

コロナへの効果が期待できる抗体を80種類取り出すことに成功した。このうち中和抗体は18種類で、3種類がIgA抗体だった。医大独自の「免疫モーターチップ」というシステムを活用して取り出した。IgA抗体は血液のほか口や鼻にも存在し、粘膜組織で多く分泌されるといふ。そのため、感染を阻止する能力が高いとする先行研究もある。医大によると、ウイルス

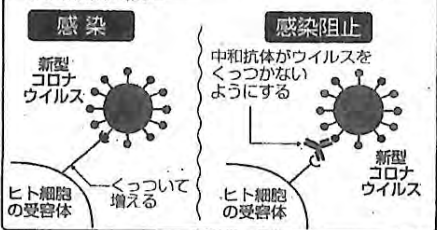
はヒト細胞の受容体に結合して感染する。中和抗体はウイルスの特定の部分に先にくっつき、感染を阻止する仕組みで、変異株にも効果を発揮すると期待される。現在接種の進むワクチンとは体内で中和抗体を生み出して感染を予防するが、中和抗体が必ずできるとは限らない。抗体医薬品は中和抗体を確実に供給できるメリットがある一方で、ワクチンより製造コストが高いという。27日、医大で記者会見した竹下誠一理事長・学長は「日本は新型コロナウイルスのワクチン開発で海外に出遅れたが、治療薬の分野なら挽回可能」と指摘した。

コロナ感染阻止「IgA抗体」

◆中和抗体投与のメリット



◆中和抗体の働き



2年後臨床開始目指す

県内17人が変異株感染

県は27日、県内の17人が感染力の強い新型コロナウイルスの変異株に感染していたと発表した。県内の変異株確認は計27人となった。県は「県内でも変異株による感染が拡大している状況にある」として警戒を呼び掛けている。(2面に関連記事)

県衛生研究所や福島県、山内市の保健所、民間検査機関で19、25日にかけて行われたスクリーニング検査で、変異株はクラスター(感染者集団)関連からも確認されたが、濃厚接触者を特定しているという。

「N501Y」と呼ばれる型だった。今後、ゲノム(遺伝情報)解析しどの型の型が調べる。これまでに判明している10人はいずれも英国株だった。変異株はクラスター(感染者集団)関連からも確認されたが、濃厚接触者を特定しているという。

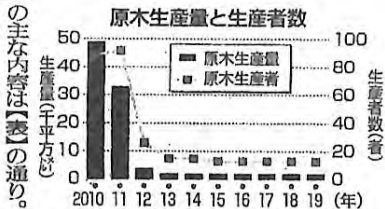
シイタケ原木再生着手

県と林野庁、地域ごとに計画

林野庁と県は27日、本県のシイタケ原木林の再生に向けた「里山・広葉樹林再生プロジェクト」を開始させた。震災、原発事故から10年がたち、県内の多くの地域で放置されてきた原木

後、手付かず多く

- 1. 広葉樹林再生プロジェクトの主な内容
- 2. 原木林の把握や再生が必要林の抽出など、地域ごとに計画
- 3. 見の発掘、共有とさらなる調査
- 4. 見をまとめた「シイタケに向けた里山・広葉樹林(ドライン)」の作成
- 5. 広葉樹の利用拡大
- 6. 燃料用チップや内装材備



は、森林組合や生産者団体、市町村関係者らへの聞き取りや、航空レーザーによる測量などを行う。

このほか、伐採によって放射性セシウム濃度などの程度低減するかの調査や、伐採した木を製紙や燃料用チップなどに活用する方法も検討する。

県によると、震災前、阿武隈高地などを中心にシイタケ原木の生産が盛んで、

用可能な指標値(1平方メートルあたり50立方メートル)を回り、生産量が激減した。

シイタケ原木は、定期的な伐採によって直径10センチほどの太さに保つことが望ましいが、多くの地域では原形のまま、伐採が行われておらず、原木の大径化が進んでいる。このため原木林の計画的な整備、伐採への着手が急がれている。政府が3月に改定した第2期復

いわき市は27日、市内の事業所と高齢者施設で各5人の新型コロナウイルス感染症を確認し、2件のクラスター(感染者集団)が発生したと発表した。いずれも名称は公表していない。

事業所では、21日に従業員1人の感染が判明。濃厚接触者や接触者約20人を検

アスクル正規販売店 クラシマ

アスクルのことならクラシマへ!

オフィス用品 ☎(024)552-2116

月～金(祝日を除く) 9:00～17:00

ハローキティのニュースを探せ!

HELLO KITTY © 21 SANRIO APPL. NO. L618162

◆きょうの紙面のどこかに、答えが分かる記事があります。

二木松市の里山にある智恵公園を訪れ、光太郎と智恵を並べて散策

編集日記

二木松市の里山にある智恵公園を訪れ、光太郎と智恵を並べて散策

読者のために、温泉街の賑わいを再現した「温泉めぐり」のキャラクターの名前は?

◆きょうの紙面のどこかに、答えが分かる記事があります。

読者のために、温泉街の賑わいを再現した「温泉めぐり」のキャラクターの名前は?

購読申し込みは 0120-152214へ

新型コロナウイルスの感染予防を狙った鼻噴霧型のワクチンや予防薬の開発が進んでいる。現行のワクチンは重症化を防ぐ効果は高いが、感染を完全に防ぐわけではない。今後、感染力がさらに強い変異ウイルスが蔓延する恐れもあり、治療薬とともに感染予防効果の高い医薬品に期待が高まっている。

ワクチンを筋肉注射すると通常、血液中に「IgG」というタイプの抗体が増える。ただ、ウイルスがまず付着する鼻やのどの粘膜にはIgGの量が少なく、感染予防効果は限定的だ。粘膜に分泌されるタイプの「IgA」という抗体が鼻やのどにできれば感染自体を防ぐ効果が高まる可能性がある。

三重大学の野阪哲哉教授（ウイルス学）らは、鼻などの粘膜にIgAを増やそうと、新型コロナウイルスの突起の設計図となる遺伝物質を無害な別のウイルスに組み込んだ鼻噴霧型のワクチンを、新興企業「バイオコモ」(三重県)と開発中だ。動物実験では、粘膜でIg

ワクチンや薬開発進む

感染 鼻から防ぐ

◆感染を防ぐワクチンや予防薬



Aが増加した。2回接種した後には新型コロナウイルスを感染させると、3日後には鼻の粘膜でウイルスがほとんど確認されなくなった。野阪教授は「鼻噴霧は注射に比べ負担が小さい。1年以内の臨床試験開始を目指したい」と話す。鼻噴霧型ワクチンは、東京大発の新興企業「ハナバック

ス」(東京都)も研究しており、塩野義製薬が製品化を目指している。海外では英オックスフォード大や中国・香港大などが臨床試験を始めている。一方、福島県立医大の高木基樹教授(創薬科学)らは、IgA自体を鼻に噴霧する感染予防薬を開発している。感染経験者の血液からIgAを抽出し、その遺伝情報からIgAを大量生産することに成功した。予防薬開発に向けた前段階として7月には、IgAをフィルターに含ませたマスクを試作した。今後、市販を予定しているという。国立感染症研究所の長谷川秀樹・インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター長は「感染が拡大すればウイルスが変異する可能性もそれだけ増える。感染の予防は未知の変異ウイルスの出現を防ぐ上でも重要だ」と話している。

新型コロナウイルス感 明らかにした。

染から回復した人の血液 発売日や価格、販売方 入りにくい仕組みとなっ
から取得した抗体「IgG」法は製造・販売を担当す イルターには福島医大が

福島医大開発の抗体活用マスク

年内に発売見通し

「A」を用いて福島医大が 企業が検討している。独自のタンパク質解析技
開発したマスクが、年内 マスクは特殊なフィル 術を生かして取得した抗
に発売される見通しとな ターが入っており、ウイ 体「IgA」が付いてい
った。同大が二十一日、 ルスを吸着し、鼻や口に 入る。

Jヴィレッジで高校生らに配布へ

きょう8000枚贈呈

日本サッカー協会に

福島医大は二十二日、開発したマ
スク八千枚を日本サッカー協会に贈
呈する。協会はJヴィレッジ(楢葉・
広野町)で競技する高校生らに配布
する予定。

Jヴィレッジでの安全安心なスポ
ーツの促進と地域の活力創出を通
じ、浜通りの復興につなげたいと贈
呈を決めた。二十二日はJヴィレッ
ジで贈呈式を行う。福島医大の竹之
下誠一理事長兼学長、日本サッカー
協会の田嶋幸三会長らが出席する。

高から角界入りし、二〇二一年(平成三十三年)の九州場所が初土俵を踏んだ。二〇二三年七月の各巨場所、二〇一九年一月の初場所でも下優勝し、同三月の春場所でも新十両に昇進した。

福島市出身の大波三兄弟の次男。祖父は元小結若菜山、父政志さん(平)は元幕下若信夫、兄の若隆元(平)と本名大波凌さん、荒汐部(平)は幕下二十八枚目で、今場所はこれまで三勝二敗。弟の若隆元(平)は十一日目を終え、四勝七敗。

勝って

千秋楽まで残り四番。一週間は二桁勝ちの「S」で勝利を挙げた。

夢はジャンボに

一等・前後賞合わせで十億円が当たる「年々ジャンボ」が求めた。二十四日、金庫一戸を「大ジャンボ」に



発売初日から多くの人々が訪れたいわき市の平一町目室くじセンター

とついで。二〇〇五年(平成十七年)の介護保険改正に伴い、試験や研究の実施主体が「福道医療財団」に指定された。この時点で条例制定の必要がある。

だが、県は対応してこなかった。改正法の内容への理解が十分でなかったとしている。県は徴収業務を担う県社会福祉協議会などと協議し手数料の額を臨時算定しており、過大や過少な徴収は生じていないという。徴収

福島医大

コロナ回復者の抗体活用 マスクとスプレー

1~6日 福島市で先行販売



抗体を利用したマスク(右)と布マスクなどに吹き付けて使う抗体スプレー

新型コロナウイルス感染症から回復した人の血液から取得した抗体「IgA」を用いて福島医大が開発したマスクが十二月一日から六日まで、福島市栄町のいちい街なか店で先行販売される。本格的な販売は来年一月から。

マスクは四層構造で、抗体を染み込ませた特殊なフィルターが入っている。ウイルスがマスクの中に入り込

んだ場合、抗体がウイルスに吸着し、鼻や口から体内に入るのを防ぐ。

一箱二十枚入りで、税込が三千九百六十円。千種限定。同大は須賀川市の企業と連携して量産化を進めている。来年三月には月産百万枚を目標とする。

同大では期間中、抗体を含むスプレーを先行販売する。布やウレタン製のマスクの内側に吹き付けて使う。体

質上、不織布マスクを使えない人でも利用した。一本三千円入りで税込が三千二百七十二円。

同大はコロナ感染症の予防策の確立に「IgA」を国内で初めて発売。製薬化には時間差を要するため、医薬部外品であるマスクやスプレーを手掛けた。高木基樹教授(右)は「研究成果が国民のために役立つ日が訪れてうれしい」と話した。

体に吹き付けて使う。体

新型コロナウイルス関連

病院収支、補助金で黒字 2

若元春 新入募へ前進 20



みんなネット特設ページ

2021年(令和3年)
11月25日 木曜日

旧暦10月21日 赤口 二黒

福島民友



発行所 福島民友新聞社 〒960-8648 福島市柳町4-29 代表電話024・523・1191 www.minyu-net.com

須賀川	10	10	70	14	30	20	20	30	40	100
田村	10	10	10	12	20	20	20	40	50	100
白河	0	10	10	16	30	20	20	50	60	100
相馬	10	20	40	15	7	20	20	10	40	100
南相馬	0	20	30	14	5	20	20	0	30	100
浪江	0	0	0	17	7	20	20	0	30	100
平	0	10	10	17	6	10	10	10	10	100
小名浜	0	10	10	18	9	10	10	20	40	100
若松	40	40	80	13	5	70	70	20	40	100
喜多方	100	90	90	11	1	90	70	40	60	100
猪苗代	70	40	80	10	4	80	60	20	40	100
西会津	90	90	80	10	6	80	80	20	40	100
田島	10	20	60	11	1	30	80	20	40	100

週間気温

26日	27日	28日	29日	30日	1日
9	9	8	11	13	16
4	3	0	-1	1	8
15	12	11	15	15	10
15	15	4	5	5	9
8	7	5	8	10	13
4	2	-1	-3	-2	5

0120 353202

献上へ箱詰め

平家から皇室に献上された鉄父高姫勢津子さまの成徳を祝って宮中に献上されたのが始まり。戦中途中断を遂げ、戦後は知事官を通過して献上している。

箱詰め作業では、組合が生産した会津身不知柿が70個用意された。県会津地方振興局の職員6人が「11-23」で丁寧に磨き、和紙で包み、45個ずつ6つの箱に詰められ、25日(天皇、皇后両陛下)や各宮家へ届けられる方針を固めた。

出荷組合 会津身不知柿

IgA抗体活用 今度はスプレー

福島医大第2弾開発

福島医大は、新型コロナウイルス治療薬の開発を進めていたIgA抗体を有効に活用したIgA抗体配合スプレーを開発した。スプレーは既に試作品を発表している。IgA抗体マスクとともに、12月1-6日に福島市のJR福島駅前にある、いちい街ながら店が販売される。医大はIgA抗体を使っ

福島医大が開発したIgA抗体配合スプレー

業者に対する健康観察義務とする。関連経費の6900万円を補正予算案に盛り込ませて見守り体制を拡充した。

業者に対する健康観察義務とする。関連経費の6900万円を補正予算案に盛り込ませて見守り体制を拡充した。

業者に対する健康観察義務とする。関連経費の6900万円を補正予算案に盛り込ませて見守り体制を拡充した。

業者に対する健康観察義務とする。関連経費の6900万円を補正予算案に盛り込ませて見守り体制を拡充した。

水 ガス 空調 修理24.com

24時間365日出張修理

0120-704-846

ハローキティの ニュースを探せ!

HELLO KITTY © '21 SANRIO APPR. NO. L518182

白河藩主から老中

に就いた松平定信は寛政の改革で、大名に1万石につき50石を備蓄させる「困窮」を指示した。藩主として開墾やコメの備蓄を命じ、天明の大飢饉で餓死者を一人も出さなかつた経緯を踏まえた▼その約半世紀前、定信の祖父、8代将軍の徳川吉家も備蓄などを推進した。吉家は市場の流通量を抑えて年貢米の価値を引き上げ、高値で貨幣と交換するが狙い。幕府の財政再建に成果を上げた一方、米価の上昇は庶民らの暴動を招いた▼世界的な原油高騰を受け、政府は米価や中国などと協議し、備蓄していった石油の売却を決めた。国家備蓄の数日分を放出し、一時的に流通量を増やして価格高騰を抑制させる▼1973年の第一次オイルショックを受け、安定供給のため石油の国家備蓄は始まった。産油国の大幅減産や災害時などの有事に備えることが本来の目的に備蓄された貴重な資源を別の目的で活用する声も根強い。吉家の備蓄も、凶作に備え、吉と出るか、凶と出るか。

↑2021.11.25

編集日記

白河藩主から老中に就いた松平定信は寛政の改革で、大名に1万石につき50石を備蓄させる「困窮」を指示した。藩主として開墾やコメの備蓄を命じ、天明の大飢饉で餓死者を一人も出さなかつた経緯を踏まえた▼その約半世紀前、定信の祖父、8代将軍の徳川吉家も備蓄などを推進した。吉家は市場の流通量を抑えて年貢米の価値を引き上げ、高値で貨幣と交換するが狙い。幕府の財政再建に成果を上げた一方、米価の上昇は庶民らの暴動を招いた▼世界的な原油高騰を受け、政府は米価や中国などと協議し、備蓄していった石油の売却を決めた。国家備蓄の数日分を放出し、一時的に流通量を増やして価格高騰を抑制させる▼1973年の第一次オイルショックを受け、安定供給のため石油の国家備蓄は始まった。産油国の大幅減産や災害時などの有事に備えることが本来の目的に備蓄された貴重な資源を別の目的で活用する声も根強い。吉家の備蓄も、凶作に備え、吉と出るか、凶と出るか。

ご購読申し込みは 0120-152214へ

https://www.minyu-net.com/

福島民友 NEWSmart

福島医大のIgA抗体活用スプレー、マスク



福島医大が開発したスプレー、マスクを購入しようと大勢の買い物客が訪れた売り場
＝福島市・いちい街なか店

福島で販売開始

新型コロナウイルスの感
染阻止に有効な「IgA抗

体」を活用し、福島医大が
開発した「IgA抗体配合
スプレー」と「IgA抗体

マスク」の販売が1日、福
島市のいちい街なか店(旧

中合福島店1階)で始まっ
た。販売開始直後から多く

の買い物客が訪れた。同店
吹き付けて使うマスクは、

フィルターに抗体が吹き付
けられている。

スプレーを購入した。パー
ト従業員菅野恵美子さん
(65)は「病気の治療中で免
疫力が落ちていると思われ
る妹のために購入した。買
えて良かった」と話した。

このIgA抗体は従来の
変異株にも効果があること
が確認されているが、医大
の高木基樹教授は「オミク
ロン株への効果は今後検証
していきたい」とした。

スプレーはディー・アー
ル・シー(東京都)が製造
し、いちい(福島市)が販
売、希望小売価格は1本30
円、3278円。今後、い

ちい全店で販売予定。マス
クはゼファー(須賀川市)
が製造を担い、IgA・J
APAN(郡山市)が販売
する。20枚入り1箱で希望
小売価格3960円。本格

的な販売は来年1月から
で、県外での販売も想定し
ている。

福医大の抗体マスク・スプレー 福島で先行販売始まる

抗体を使ったマスクやスプレーを買い求める来店客



福島医大が新型コロナウイルス感染症の回復者から取得した抗体「IGA」を用いて開

発したマスクとスプレーの先行販売が一日、福島市栄町のいちい街なか店で始まった。初

日から多くの人が訪れ、「感染防止に」と買い求めている。六日まで。

マスクには抗体を染み込ませた特殊なフィルターが搭載されている。ウイルスが入り込

んだ場合、抗体とウイルスが結合し、鼻や口から体内に入るのを防ぐ。スプレーにも抗体が入っており、布やウ

レタン製のマスクの内側に吹き掛けて使う。マスクは一箱二十枚入りで税込み三千九百

六十円。千箱限定。来年一月に本格的に販売を始める。スプレーは一本三千二百七十八円。二千本限定。先行販売終了後、いちい十五店舗で販売する。

オミクロン対応マスクを開発へ

新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の国内での感染確認を受け、福島医大はオミクロン株に対応した抗体マスクの

開発を目指す。同大医療―産業トランスレーショナルリサーチ（TRL）センターの高木基樹教授が一日、福島民報社の取材に明らかにした。

先行販売しているマスクは、デルタ株をはじめとする従来株に結合して侵入を防ぐ効果がある。今後、現在の抗体とオミクロン株が結合するかどうかを調べる試験を実施し、結果を踏まえて商品にかしていく方針だ。

マスクとスプレー 感染予防

福島県立医大の「医療産業トランスレーショナルリサーチ（TR）センター」が開発した新型コロナウイルスを吸着させる効果があるIgA抗体を活用したマスクとスプレーが、6日まで福島市内で販売されている。

TRセンターが抗体を提供。マスクはファクトリーオートメーションなどを手掛けるゼファー（須賀川市）が開発・製造、スプレーはスーパーマーケットのいちい（福島市）などが製造・販売を担った。

福島県立医大TRセンター開発

新型コロナウイルス吸着の抗体活用



織布マスクは水をはじくため使用できない。TRセンターは医薬品関連の開発支援などを目的に2012年に設立された。センターは今年4月、新型コロナウイルスに感染した元患者の血液を解析し、感染を防ぐ能力を有する計18種類の中和抗体検出に成

功。抗体を活用した新型コロナウイルスの予防薬などの開発を進めている。

TRセンターの高木基樹教授は「多くの人が集まるよう

スーパーいちい販売

な感染の危険性が高い場などで活用してもらいたい」と話した。

マスクは1箱20枚入り3960円、スプレーは1本30円、スプレーは1箱20本入り3278円。福島市のスーパーいちい街なか店の催事場で、マスクは1000箱、スプレーは2000本限定で販売中。

①IgA抗体フィルターを使用したマスク
②IgA抗体を配合したスプレー



猪苗代湖を自転車で一週

3市町連携、ルート策定へ

県や郡山、若松、猪苗代など 協議会発足

県や郡山、会津若松、猪苗代の三市町などは猪苗代湖を自転車で一周するサイクルリングルートを策定する。二十一日、猪苗代湖協議会を発足させた。今年度内にルート案を定

協議会は地元市町のほかに、県、県サイクリング協会、Link TOHOKU、学協会などによる協議会を立ち上げた。猪苗代湖周辺は自転車道が少なく、安全なルートが確保できないなど、地域の魅力を反映したルートをつくり、自転車愛好者の呼び込みを図る。利用者の走行ルートに合わせて、バスや自転車が改定した際の支援体制の在り方、休憩所や案内板の整備なども検討する。



サイクルリングルートの策定に向けて協議を交わした協議会

初回会合はオンライン開催で、冒頭を除いて非公開放行われた。委員は次高野郡市システム工学科教授を選んだ。猪苗代湖周辺は「サイクルエイド・ジャパ In 郡山、ツィクルエイド・シャインエイト・ジャパ In 猪苗代、MTRIDE 磐梯山」など自転車関連のイベントが開催されている。委員は次高野郡市システム工学科教授を選んだ。猪苗代湖周辺は「サイクルエイド・ジャパ In 郡山、ツィクルエイド・シャインエイト・ジャパ In 猪苗代、MTRIDE 磐梯山」など自転車関連のイベントが開催されている。

いっしょに読もう！新聞コンクール



ほしの 唯

日本新聞協会の第11回「いっしょに読もう！新聞コンクール」の入選作が二十一日発表された。県内から奨励賞に福島市の伊達学院中二年の袴田優和さんが選ばれた。学校奨励賞を福島市の北信中、いわき市のいわき秀英中が受賞した。

袴田さんは、伊達地方消防本部が贈った賞状に「読書に励む多くの人は、心豊かになる。」と記されていた。北信中は一回、伊達学院中は二年の袴田優和さんが選ばれた。学校奨励賞を福島市の北信中、いわき市のいわき秀英中が受賞した。



SDGsへの理解を深めた出前講座

SDGs 意義学ぶ 郡山の報徳観光バス社員

社務部 民出



国連の持続可能な開発目標(SDGs)をテーマにした福島民報社の出前講座は二十一日、郡山市の報徳観光バス(佐藤隆雄社長)の社員を対象に市労働福祉会場で開かれた。県内でSDGsへの理解と行動を広げる「いっしょに読もう！新聞コンクール」の一環として企画した。福島民報社地域づくり部の渡部貴夫地域交流部長が講演した。

袴田さん(桜の聖母中) 奨励賞

学校奨励賞 北信中、いわき秀英中

抗体内蔵マスク量産

ゼファー(須賀川)・福島医大



ゼファー内にある抗体マスクの製造装置



伊達隆雄 社長

新型コロナウイルスが体内に入り込むのを防ぐマスクを開発した。福島医大は独自のタンパク質解析技術を生かし、コロナ感染症の回復者の血液からIgAと呼ばれる抗体を取得。抗体を内蔵したマスクの量産化を実現させた。福島医大の高木博樹教授(左)は一人間に備わったウイルスと抗体が付着する構造を応用した高品質な「ゼファー」を開発した。IgAが染み込みやすい特殊なフィルターを開発した。スプレーで吹き付け、量産化に成功した。

設立=2002(平成14)年3月
従業員数=10人
住所=須賀川市森宿30の3
電話番号=0248(75)1183
社長=伊達隆雄

坂下「大俵」完成 来月14日に祭り



会津坂下町で二月十四日に開催される伝説行事「坂下初市・奇祭大俵引き」に使われる大俵が二十一日、完成した。大俵は高さ二・五メートル、長さ四メートル、重さ五トン。同日は町南車庫で、玄米、キビ、アワ、大豆を詰められた五穀俵(ほうちょう)を、大俵の引き手を取り付けた。会津坂下町では、大俵の引き

回ふくしま産業賞

晴れの受賞社・団体

回ふくしま産業賞

IgA抗体 オミクロンにも有効

福島医大は1日、新型コロナウイルスの感染阻止に有効な「IgA抗体」について、オミクロン株やデルタ株などの変異株にも非常に強く結合し、感染阻止に有効であることを確認したと発表した。

IgA抗体は福島医大医療・産業トランスレーショナルリサーチセンターが、新型コロナウイルスに感染して回復した人の血液から取得した。この抗体を使った「IgA抗体マスク」と「IgA抗体配合スプレー」が、スーパーマーケットいちいや鎌倉屋で販売されている。福島医大は「取得した抗体を活用し、新型コロナウイルスの抗体医薬品の研究や抗体の大量生産体制の充実、抗体を活用した衛生材料の開発などを進めていく」としている。

福島医大発見のコロナ抗体「IgA」

オミクロンにも作用

福島医大は1日、新型コロナウイルス感染症の回復者の血液から取得した抗体「IgA」について、変異株のオミクロン株にも作用することを確認したと発表した。

同大医療・産業トランスレーショナルリサーチ（TR）センターはIgAを活用したマスクとスプレーを開発し、昨年十二月に販売を開始。IgAとウイルスが結合する性質を生かした商品で、ウイルスが鼻や口から侵入するのを防ぐ。オミクロン株の感染拡大を受け、変異株にも結合するかと調べた結果、「非常に強く結合する」と分かったという。

同センターは今後、IgAを活用した抗体医薬品の開発を目指すとしている。

マスクに応用の抗体
オミクロンにも効果
県立医大が発表

県立医大は、新型コロナウイルス感染者の血液から取得した「IgA抗体」が、第6波で猛威を振るう感染力の強い変異株「オミクロン株」にも強く結合することを確認できたと発表した。

同大などは、1600億個のIgA抗体でウイルスを吸着するマスクを開発。

鼻やのどへのウイルス侵入を防ぐ効果が期待できる
といい、昨年12月からスパー「いちい」で売られて

いる。
同大は「今後も抗体を活用し、新型コロナウイルスの医薬品研究や衛生材料などの開発を進めていく」としている。

■「IgA」抗体マスク販売 いち



いが6日まで、郡山市のうすい百貨店・1階特設会場で販売している＝写真＝。新型コロナ

ウイルス感染症の回復者から取得した抗体「IgA」を用いて福島医大が開発した。布やマスクに吹き掛けて使用するスプレーも販売している。ウイルスが体内に入るのを防ぐ効果があるという。時間は午前10時から午後6時30分まで。

製品概要

- 品名：マスク
 - (商品名：4層構造ウイルス吸着マスク)
 - 対象：花粉・ほこり等
 - 素材：本体：ポリプロピレン
 - 耳ひも：ポリエステル・スパンデックス
 - ノーズフィットワイヤー：ポリエチレン
 - 枚数：5枚
 - サイズ：ふつうサイズ (約175mm×95mm)
 - 包装材：外箱 (紙)
 - 提供元：公立大学法人福島県立医科大学
 - 製造元：株式会社ゼファー
- ※パッケージデザインは予告なく変更する場合があります。



2021-7-21 新聞記事に掲載されました
 福島民友

「IgA抗体」マスク開発 福島医大が試作発表

研究成果還元 コロナウイルス吸着



福島の血液から取り出した「IgA抗体」を利用したマスクの開発を発表した。福島県立医科大学の研究チームが、新型コロナウイルスに感染した人の血液から取り出した「IgA抗体」を利用して、IgA抗体マスクを開発した。このマスクは、IgA抗体がウイルスを吸着し、体内への侵入を防ぐ。研究チームは、IgA抗体マスクの4層構造のイメージ図を示している。このマスクは、通常のマスクよりも、IgA抗体がウイルスを吸着する能力がある。研究チームは、このマスクの開発を通じて、研究成果を還元し、社会に貢献したいと考えている。

IgA抗体マスクの4層構造のイメージ図




福島医大「抗体マスク」開発

新型コロナウイルス特殊フィルター内蔵

福島県立医科大学の研究チームが、新型コロナウイルスに感染した人の血液から取り出した「IgA抗体」を利用して、IgA抗体マスクを開発した。このマスクは、IgA抗体がウイルスを吸着し、体内への侵入を防ぐ。研究チームは、IgA抗体マスクの4層構造のイメージ図を示している。このマスクは、通常のマスクよりも、IgA抗体がウイルスを吸着する能力がある。研究チームは、このマスクの開発を通じて、研究成果を還元し、社会に貢献したいと考えている。

ウイルスを吸着するイメージ



抗体マスク 年内量産化へ

須賀川の企業取り組み



橋本市長にマスクの特性を説明する伊堂社長

福島医大が開発した新型コロナウイルスの抗体を活用したマスクを製造する須賀川市の生産設備会社ゼファアは、年内の量産化を目指すとしている。伊堂隆徳社長(53)は20日、市役所を訪ね、

ターに吹き付けた。新型コロナウイルスを強く吸着する特性があり、フィルタ1平方センチあたり約10億個の抗体が含まれるという。伊堂社長はすでに月産2万枚の生産を実現しており、年内に月産50万枚を目指すことを説明。「医大の研究を製品化し、ものづくりの立場から感染防止に貢献したい」と話した。

橋本克也市長に生産体制構築を進めていくことを説明した。マスクは、新型コロナウイルスに感染し回復した人の血液から取り出した「IgA抗体」の遺伝子を基に増やした抗体をフィル

コロナ吸着フィルターマスク
ゼファアが開発を報告
須賀川市関表の精密部品・加工品製造業ゼファア(伊堂隆徳社長)は、福島医大と共同で開発したもので、通常フィルターとIgAフィルターで構成する4層構造のマスクを利用したマスク開発に成功した。20日、伊堂社長と矢吹正統括本部長が市役所を訪れ、商品完成を報告した。



県立医大との共同開発マスク完成を報告

伊堂社長は県立医大との共同開発経緯を説明し、「(新型コロナウイルス)強く吸着するIgA抗体が体内への侵入を防ぐ。商品完成を報告した。伊堂社長は県立医大との共同開発経緯を説明し、(新型コロナウイルス)強く吸着するIgA抗体が体内への侵入を防ぐ。

に対して、日本はワクチンが世界と比べて出遅れたが、体外からの侵入を防ぐ開発は県立医大が世界のトップを走っている。年内に月産50万枚の生産体制が築けるよう、県内から

橋本市長は「須賀川の地元企業が世界のトップに冠たる活躍を遂げることは大望です。活躍に期待しています」と述べた。

ゼファア(森宿) IgA抗体利用マスク開発 県立医科大と共同開発 全国展開へ

でフィルターに含まれるIgA抗体が外部からのウイルスを吸着し、体内への侵入を防ぐもので、年内に五十万枚の製造を目指す。販売先は未定。IgA抗体を利用したウイルス吸着マスクの開発報告



ゼファア(本社須賀川市森宿)の伊堂隆徳代表取締役社長は、二十日午後、市役所を訪れ、橋本克也市長に新型コロナウイルスI g A抗体を利用したウイルス吸着マスクの開発報告を行った。

県立医大と共同開発したI g A抗体を活用したマスクの試作品を橋本市長に手渡した。伊堂社長は「新型コロナウイルス感染症予防に役立て、減少に

繋げたい。全国展開も考えている」と話し、橋本市長は「新型コロナウイルスを吸着する素晴らしいマスク、市から発信する器産業の新たな展開を期待したい」と述べた。同マスクは四層構造